

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300048	
法人名	社会福祉法人 鶯園	
事業所名	グループホーム 津山(北館)	
所在地	岡山県津山市小田中138-1	
自己評価作成日	令和4年3月29日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和4年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年他は施設も一緒だと思いますが 行事という行事ができなくなり 初めて何とも言えない不思議な経験をした1年でした
いつも月一回の全員での外出 そこで四季折々の風景を身体で感じ 美味しい物をいただく また南北合同のお済み会・ご家族を
招いての敬老会等 ご利用者様の楽しみをあげ合わせてあげられないことを残念に思いました しかし 反対に今まで経験出来な
かった事ができたとプラス思考で考えると感染予防や感染対策を職員全員で考え、ホールが今までと全く違う配置になった事です
それをもとに誕生日をしたり クリスマス会・お正月・節分・ひな祭りの行事を行い ご利用者様の笑顔が見られたことは少しホッ
と致しました 今から世界がどのように変わるかは誰一人知る人はいないと思います その状況に合った暮らしを考え それによっ
てのご利用者様の楽しみを職員全員 過去をひかず 前向きに進み 新しい生活様式の中で楽しい行事が生まれ ホームで
暮らす皆様の笑顔の手助けができるよう職員一同頑張ります コロナ感染症がすぐに終息するとは考えられません 今はまずコロ
ナに感染しないように職員が気をつけ ご利用者様がホームで元気に暮らせるよう願っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所からは神社や山、畑などが見渡せ、庭のベンチで日光浴ができ、利用者は思い思いに自由に過ごしている
。「安心安全、元気で楽しく、利用者も職員も笑顔で過ごせる思いやりのあるグループホーム」をスローガンに、
家庭的な雰囲気を利用者が安心して暮らせるよう支援に努めている。職員は毎月の行事が楽しいものとなるよう、
利用者と一緒にリビングの飾りつけを行ったり、おやつや行事食を一緒に作っている。(正月が日・新年会・七
草がゆ・節分・バレンタイン・・・と毎月楽しく美味しい食事が提供されている。)また、外食の雰囲気を感じられるよ
う、おうちレストランと称し、白いテーブルセンターで料理を提供するなど、視覚的にも楽しめるような工夫をしてい
る。家族に対しては、毎月通信を発行し「日常生活の様子が写真でよくわかり、体調変化などあれば連絡も密にあり
、安心している」と、家族からの信頼を得ている事業所である。(電話にて聞き取り・書面調査)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールに掲げた3つの理念「家庭的で安心な生活」「健康維持向上」「ご家族と利用者との良きパイプ役」を頭に入れ職員全員日々のケアを行っています	ホールの皆が見えるところに、事業所理念を掲示し、共有している。自己評価を行う度に、自分自身の認識や思いを振り返り、再確認することで、今後のケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年 散歩などで出会った方と挨拶を交わし、施設内の避難訓練に地域の方に参加して頂いている また、小学校との交流 八幡宮のお祭りやお涼みに参加させて頂いていましたが昨年に引き続きコロナ感染症対策にて地域の行事参加できていません	コロナ禍のため、地域住民や学生との交流やボランティアの訪問、お祭りへの参加など交流が困難であった。年2回の避難訓練時に地域の方の参加があり、コロナ禍以前には、利用者の避難活動を手伝ってくださるなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年 小6年生との毎年の交流会をする前に担任の先生から認知症について理解を深めて頂きそれを持ち帰り生徒との勉強会をした上でクラスをグループ分けして利用者様1名に3・4人が紙芝居やゲーム手遊びなどその方にあった物を考えて下さり楽しい時間を過ごしていましたが今年度も感染症対策で出来ませんでした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎年 会議は2ヶ月に1回開催し市役所・地域の方・ご家族に出席して頂き 日々の活動報告した後 皆様からのご意見をお聴きし それを職員に伝えサービス向上に努めていましたが 今年度も感染症の為なかなか開催できずやっと 1回しか開催することが出来ました	コロナ禍のため、会議の開催が困難であった。活動報告として写真をDVDにまとめ、テレビで見え、利用者の思いや状況・身体拘束等の適正化について報告し、課題について話し合い、サービス向上に活かしている。	コロナ禍にあるが、年6回の開催及び運営推進会議メンバーへ事業所内の現状報告を行うなど、意見やアドバイスがもらえるよう関係の継続を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者の方と 情報交換をしております とても地域の現状がわかり役にたっています	これまで、運営会議で報告・相談していたが、コロナ禍のため、実地指導の時や必要時にメールや電話で事業所の実情を伝え、困難事例の相談など行い取り組んでいる。オンライン研修に参加し、情報収集と連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておりません(施錠もしていません)	北館、南館の職員で、各ユニットで行った研修の報告や困難事例の対応について話し合っている。帰宅願望のある利用者に対して、表情を観察し、気持ちを理解し、一緒に散歩するなど寄り添い、気分転換に努めている。	定期的に勉強会など開催し、身体拘束をしないケアについて理解を深め、ケアの充実が図られることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで職員同士で話し合い・動画をみたり資料を参考にして勉強しています 今年も感染症の為 研修に行くことはできませんでしたが リモート研修には参加させて頂きました		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	R2.1.8に入所された方が いずれは生活保護申請し成年後見人制度を利用するとの事で入られました その為社協の方や弁護士の方との話し合いをご本人を交え行い R2.12.4裁判所より決定通知届きました 職員も施設内研修を行い少し理解を深めました R3.11.26 入所の方は任意後見人の方についておられます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に契約書・重要事項説明書にて内容をご理解頂けるように説明し 同意を頂いております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口の設置やご意見ご要望書の設置を行っています 利用者様・ご家族の方は直接職員へ要望等を言われております 内容は職員全員に伝え要望に対処しています	利用者からは日常生活の中で、家族からは来訪時やケアプランの更新時に、意見や要望を聴いている。家族が話しやすく信頼関係を築けるよう努めている。要望があれば、職員や法人本部で検討し、出来る限り運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や毎月のミーティングで話し合いを行い 取り組んでいます	職員ノートや毎朝の申し送り時、毎月のスタッフ会議の中で意見を聴き、職員全員で課題を検討し改善に努めている。行事ごとは職員が中心になって行っており企画を提案・検討し反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はミーティング等で意見を出し合った結果を法人幹部に報・連・相を行い 就業環境の改善に努めております		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は施設外の研修はリモートにて参加しました ミーティングでは 動画を利用して職員のレベルアップに役立てております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年 グループホーム協会等の研修に参加させて頂き交流・資質の向上に努めておりました 今年も感染症の為出向く事は出来ませんでしたが リモートでの会議で参加させて頂きました		

Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時 ご家族から生活歴を聴き マッピングシートを使って職員全員で ご本人の生活習慣・行動を色々な面から見せて頂き ご本人が今の生活になじむように支援しています	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時に家族から話しを伺っておき その後入所時に詳しくお聴きしてこれからどのようにしていくか一緒に考えその都度電話やホームで会って問題を解決してまいります職員だけでは解決しない場合はその専門の方に相談しております	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申し込みの見学に来られた方で GHでの生活が難しいと思われるような方には 他の施設への情報提供を行っております	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活習慣を理解した上で日常生活でできることを職員と共に行っています(レクで食事作り・洗濯干しやたたみ) ご本人が声をあげて「何々したい」を尊重し職員と一緒にい1人でできる時はお任せし 気持ちは出来ると思っている方には職員がお手伝いをしながら楽しく行っています	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	話し合いの中から家族が行える支援をケアプランに明記し 共に支える体制を築いています 今年も感染症の為(毎年誕生日会 敬老会等の行事に参加して頂いていましたが今年もできておりません) ご家族が問題提議される方には一緒に考えております	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年も全くできておりません ひとりの利用者様の家族ではないが両親を亡くした子供の私をを家族のようにかわいがってもらったと言われお菓子を持って時々面会に来られております	入所時に本人・家族からこれまでの馴染みの関係を聞いて把握し、職員間で共有している。面会はスマホ、タブレットで行い、遠くの家族とも顔を見て会話できるよう配慮している。携帯電話を所持し家族と話せるよう操作の支援をしたり、孫からのはがきにいつも返事を書く利用者もいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	重度化した利用者様だけが孤立しないように職員が間に入り支援しています また利用者様同士の相性を考え 又 感染症の事も考えパーテーションでしきり席を決めました 今年もいつもと違うやり方で利用者様が近づきすぎないようにまた気持ちは離れすぎないように職員が中に入りちょうど良い関係を保つようにしました	

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎年 転居先には看護添書にて情報提供を行い、次に入所された施設・病院には ご様子を聴かせて頂いております。ご家族も喜んで下さっております。退所されてもご家族が相談に来られることがありました		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に寄り添いその方に合った声掛けを行い、一人ひとりの意向に添えるように努力しております。職員が皆様の中に入り会話の橋渡しをし、場を盛り立て楽しく日々を過ごせるよう支援しています	利用者職員が、対等の立場で話し信頼関係を築き何でも話せる関係で日々接している。会話の中で表出された思いなどを個人記録と職員ノートに書き、職員全員に伝えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面接で生活歴・生活状況の聞き取りや入所後のマッピングシートにて把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン実績表や介護経過・毎日のバイタルチェックの記入を通して利用者様の状態を把握しその方のペースで日々過ごして頂いております		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際にはモニタリングにて現行プランの見直しを行いケアカンファレンスを開き、関係者の意見をきいています。	入所時の情報と本人・家族の意向をもとに介護計画を作成している。総合的な援助方針と、計画書の計画内容が詳細に記載されており、支援が明瞭である。介護経過が詳細に記載されており、モニタリングしやすい。6ヶ月ごとに見直し、状態変化があればその都度柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実績表・申し送りノートで情報共有を図りながら、日々のケアに役立てています。必要に応じてカンファレンスを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族の要望にできる限り対応するよう努めております		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は地域の行事(祭り)・幼稚園小学校の交流・理美容ボラのご協力を頂き、ご家族からも日本舞踊を見せてあげたい、ギターを聴かせたいと言われる方にはホームのホールにて皆様に楽しんで頂いておりますこの2年はできておりません		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が月2回往診・他の医療機関受診の折は主治医より紹介状にて連携。ご家族も安心しておられます	入居を機に、内科のかかりつけ医は協力医へ移行し、月2回の往診を受けている。入居前の医師や他科受診をする場合は、コロナ禍のため職員が受診の同行をしている。緊急時は、訪問看護師が協力医に連絡・相談し必要な医療が受けられるよう連携している。歯科は必要時に往診を受けることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週に1回訪問看護を受けている。日々の体調を伝え相談援助をして頂いています。私達介護者にはわからない部分もある為、気をつけることや主治医に伝えることによって利用者様の健康管理に努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護添書にて情報提供を行い、随時、連絡を取り合っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	歩行困難や経口摂取困難などホームでの生活の限界を契約時に説明し、重度化が予想される場合など随時、意向を確認しています。寝たきりになった場合でも対応できる系列施設があるので、重度化した場合に希望があれば紹介を行っています	入居時に意向を確認しており、重度化しグループホームでの生活が困難になった場合は、医師に相談すると共に、日頃の様子を家族に伝え、希望があれば同法人の特養などの施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ前は救命救急の研修に参加している(新人職員を必須)救命救急の本を用意し各自自主学習・動画等で勉強しています。この2年間は感染症で研修には参加できていません		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回夜間日中想定で、消防設備の方の立ち会いの元行っております。また、地域住民の方も参加協力して頂いております。消防署の立ち会いはありませんでした	年2回の火災避難訓練・年1回の災害時の訓練を利用者と一緒にやった。コロナ禍のため、地域住民の立会があり、反省会で意見を聞いている。Jアラートの放送時に合わせて地震想定避難訓練とライフラインが途絶えた時の食事作り(パッキング)を行った。非常時の排泄方法や備蓄(3日分)のチェックについて確認と見直しを行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室に入る際は、必ず利用者様の了承を得ています トイレ誘導時にも配慮を行っております	プライバシー保護や「ユマニチュード」の研修を受け、利用者を敬い、言葉掛けは優しく、本人の意向に沿った対応を行うよう心がけている。家族からの希望があり、親しみや反応のよさから、特別な呼び方や対応をする場合もある。特に排泄や入浴介助には羞恥心やプライバシーに配慮した対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とのコミュニケーションを図り、自己決定して頂いています また、表情・行動などで利用者様の意志を読み取るようにも心がけております	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課の流れはありますが、それにとらわれず 各一人ひとりのペースに合った生活をして頂けるよう配慮しています	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度時には髪を整えお顔の手入れなど声かけ支援もしております 個性を活かす工夫もしております	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は各自に合った形態で提供しております 四季折々にケーキやお鍋・ぼた餅風・かき氷等利用者様と作って楽しく過ごしています できる方にはお盆拭き・テーブル拭きを手伝ってもらっております	季節の食材を活かし、一汁三菜を心がけて、栄養バランスを考慮し手作りで提供している。利用者と職員が協力して飾りつけを行ったりと、楽しい行事食となるよう工夫している。つるし柿、いちご大福などのおやつを皆で作ったり、玉葱むき、豆の筋取りなど食材の下ごしらえなど利用者は出来ることを手伝っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日チェック・体重管理し 増減にも注意している 現在水分の全く摂れない方はいません 以前はお茶白湯嫌い甘いのが好きという方には甘茶飲んで頂き最後は普通のお茶を飲むようになった例もあります ご本人の性格上また高齢等により食べたり食べなかつたりする方にはご家族や主治医に連絡・了解をとっています	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い 介助が必要な方は職員と一緒にやっている 現在夜間寝ている時居室内が口臭でひどい方おられDrに相談漢方であうがいをしたり市販のうがい薬を使用したりしています	

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員が把握し排泄誘導 職員間で話し合い 何ができて何ができないかを考え 布パンツ・はくパンツ・パット等 また 日中・夜間はどのようにしたらよいか色々と考えながら支援しております	排泄表に基づき、排泄パターンを把握し、声掛けやオリゴ糖・食物繊維・水分摂取にて排便調整を行っている。日中はほとんどの人がトイレを使用し、夜間は睡眠を優先したり、ポータブルトイレを使用するなど利用者に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日1300cc以上の水分 毎朝牛乳とヨーグルトを提供 野菜中心に肉・魚を提供 何年もオリゴ糖とヨーグルトで便秘解消していたが 最近入所された方頑固な便秘症の為下剤やマグミットで調整しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態を把握して入って頂く。9名を4名・5名に分け一日おきに入浴して頂いています 介助者が洗身しながらお話し 湯船にゆっくり入って頂いています(毎日は体や皮膚に負担がかかる為)	利用者の希望により、1～2日毎に入浴支援をしている。入浴拒否があれば、声かけや介助のタイミングを図り気持ちよく入ることができるよう工夫している。季節の菖蒲湯や柚子湯、職員との楽しい会話、歌と一緒に歌う等、ゆっくり入りたい方、早く入りたい方等、利用者の好みに合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室完備のためご自分のペースにあった生活をして頂いております 休みたい時は休んで頂き日中居室に入りたくない方は共同スペースで自由に過ごさせております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の仕分けや管理は契約している薬局で行う 主治医に状態変化あった場合連絡し指示を仰ぐ 服薬を間違えないよう名前入り薬用コップと薬を持ち本人に確認し服用(2件誤薬が続いた為)現在は上記+薬とコップを持った職員は近くにいる職員に名前を読上げご本人の所へ行く再度確認し服用してもらう(この時名前を聞いた職員は目で追う)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様やご家族からお話しをお聞きしたことをもとに喜んで頂けるよう掃除や洗濯干し・たみ 食事作り(外出外食は現在感染症の為中止しています)等日々を通して支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は歩行訓練で散歩を道路に出て歩いていたが 現在外を歩きたいという方がいなくなり今はテラスを歩行しています 天候のよい日はテラスでお弁当を食っています(毎月1回全員で外出し外食や季節折々の風景地域の行事祭り等の参加の支援していましたが今年も感染症の為実行できていません)	コロナ禍のため外出は自粛しているが、ホーム内ではできるだけ歩行の維持に努めている。屋外では安全を重視し手引き介助や車椅子介助で対応している。天気の良い日は庭の散歩や日光浴、草むしりなど行い戸外に出る支援をしている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	3万円以下のお金を預かり金として事務所で預かり、外出時に利用者様のほしい物があればそのお金をお渡ししてご本人と一緒に職員が付添って頂いております(外出時の食事代は施設側の支払いです)今年は感染症の為外出できていません。利用者様が買ってほしいと希望された時はご家族の許可を得て買っています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員がご家族からかかってきた電話の取り次ぎを行っています。また、利用者様が電話をかけてほしいと言われた時には、お電話をかけてお話をさせて頂いております。リモートができる事はご家族に連絡しております。ご家族が恥ずかしいのかまだ1度も利用されません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな場所に建てられている施設なので、落ち着いて暮らしております。ホールには季節の花を飾ったり季節感を出す工夫をし、身体全体で感じる事が出来るようにしております	コロナ禍のため、毎日マスクを交換し、楽しくおしゃべりできるよう支援している。食事時はパーティションを使用し、感染防止に努めている。明るいうリビングではソファでゆっくりテレビを見たり、庭にはベンチがあり、花壇の花、近所の畑や山を見ながら日光浴ができ、利用者は自由に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様はソファやテーブル席にパーテーションごとにお話しをされております。時々喧嘩をされることもありますが、その時には職員が中に入り仲介役をすることもあります		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前は居室に置く家具等はご本人の思いのある物を持参されていましたが、現在は、ご家族様が簡単に運べるファンシーケースのような物を持参されています。小物はご自分で用意して入所されて居室で書き物したり本を読んだりご自分で楽しく過ごしています	自宅で使い慣れた家具や愛着のある品など、自由に持ちこむことができる。持参された道具などを使いやすく配置し、利用者の状態から安全を配慮し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所や浴室は解りやすく表示しています。テーブル席は利用者様のお名前を付けてわかるようにしています。また、居室のわからなくなる方には戸口に大きく名前をつけさせてもらっております		